

# Nakatsugawa



公共交通網の維持で  
定住を推進

住んでよかった、  
住んでみたい街に。

# 目次

## 第1章 趣旨と位置づけ

1. 計画策定の目的	・・・	1
2. 計画策定に至る経緯	・・・	1
3. 計画の位置づけ	・・・	2
4. 計画の区域	・・・	2
5. 計画の期間	・・・	2

## 第2章 中津川市と公共交通の現状

1. 中津川市の現状	・・・	3
2. 主な公共交通の現状	・・・	4

## 第3章 公共交通を取り巻く課題

・・・ 5

## 第4章 地域公共交通網形成計画の基本的な考え方

1. 計画の基本方針	・・・	7
2. 計画の目標	・・・	7
3. 計画により維持する地域公共交通ネットワーク	・・・	9

## 第5章 公共交通網を維持するために行う事業

1. 事業の内容	・・・	10
2. 事業の実施スケジュール	・・・	28

## 第6章 目標の評価と進行管理

1. 目標の評価	・・・	30
2. 目標の進行管理	・・・	33

## 第1章 趣旨と位置づけ

### 1. 計画策定の目的

- 市町村合併によって市域が広域化した中津川市においては、鉄道・路線バス・タクシーは、学生の通学や運転免許を持たない高齢者の通院・買い物など、自家用車を利用できない人々の移動に重要な役割を果たしています。
- 近年では、外国人観光客も増加しており、観光をはじめとした来訪者の移動手段としても公共交通の維持・確保は重要です。
- その一方で、市民の移動は自家用車に依存しており、公共交通利用者は減少傾向が続いています。このため、特に公共交通事業者の経営状況は厳しくなっており、市などが補助金によって赤字補填をしているバス路線も数多くあります。
- 市内の移動において自家用車が主たる役割を果たしていることを前提としつつも、自家用車に完全に依存する交通体系では、学生・高齢者・来訪者など、移動に困難を来たす人々が存在することから、中津川市では住民や交通事業者と連携して、より利用しやすい公共交通を実現するための取り組みを進めます。

### 2. 計画策定に至る経緯

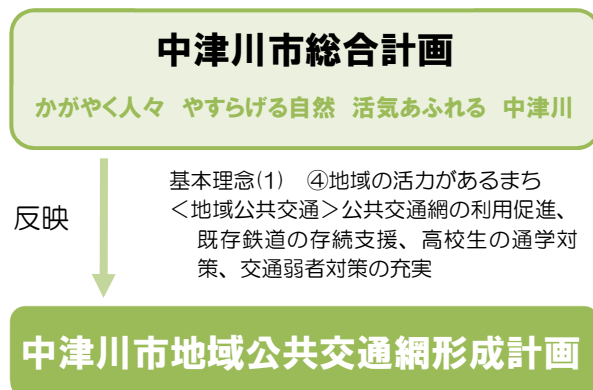
- 中津川市では、2014年2月に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成19年法律第59号）」が規定する「地域公共交通総合連携計画」にあたる「中津川市地域公共交通総合連携計画」（計画期間：2013年度～2017年度）を策定しました。
- その後、2014年11月に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が改正され、新たに「地域公共交通網形成計画」が規定されました。
- 「中津川市地域公共交通総合連携計画」の計画期間の終了に伴い、法改正の内容と現在の交通体系の状況を反映し、今後の交通体系のあり方を示す計画「中津川市地域公共交通網形成計画」を策定します。
- 本計画で取り扱う地域公共交通は、「生活や観光の移動に必要で誰もが利用できる交通手段」のことであり、中津川市においては次の交通手段が該当します。

#### ■中津川市における地域公共交通の種類

地域公共交通の種類	中津川市で該当する交通手段
鉄道	JR 中央本線、明知鉄道
路線バス	北恵那バス、東鉄バス、濃飛バス
タクシー	タクシー（3事業者）
自主運行バス	コミュニティバス、自主運行（廃止代替）バス

### 3. 計画の位置づけ

- 「中津川市地域公共交通網形成計画」は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき策定します。
- 「中津川市総合計画」（2014年3月策定、計画期間 2026年度まで）を上位計画として策定します。



### 4. 計画の区域

- 「中津川市地域公共交通網形成計画」の対象は、中津川市全域とします。

<b>計画区域</b>	中津川市全域
-------------	--------

### 5. 計画の期間

- 「中津川市地域公共交通網形成計画」の計画期間は、2018年度～2022年度の5年間とします。
- なお、公共交通を取り巻く環境の変化に応じて、計画は随時見直します。

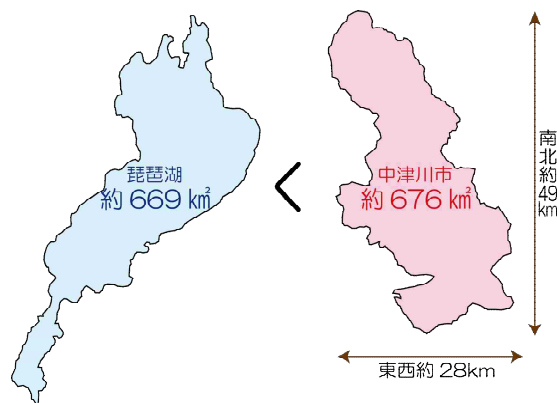
<b>計画期間</b>	2018年度～2022年度までの5年間
-------------	---------------------

#### Topics



#### 琵琶湖と同じくらい広い中津川市

- 中津川市は岐阜県の東南端に位置し、東は木曽山脈、南は三河高原に囲まれ、中央を木曽川が流れる豊かな自然と美しい景観に恵まれたまちです。
- 市域は東西約 28km、南北約 49km、総面積は琵琶湖より広い約 676km<sup>2</sup>あり、その約 80%を森林が占めています。



## 第2章 中津川市と公共交通の現状

### 1. 中津川市の現状

#### ①人口

- 中津川市の国勢調査人口は、1995年の85,387人をピークに減少に転じ、2015年には78,883人となり、2010年と比較して2,027人減少しています。
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には総人口が58,568人、うち65歳以上人口は23,254人（39.7%）と予想されています。

#### ②移動手段

- 市民の日常的な外出行動（通勤・通学、通院、買い物・飲食、娯楽）の移動手段は、どの項目においても自動車を利用する割合が最も高くなっています。
- 通勤・通学者の約8割は、市内で通勤・通学しており、次いで恵那市との間での移動が多くなっています。
- 中心市街地までの交通手段では、中心市街地内に住む方の移動は約4割が自動車です。一方、中心市街地外に住む方の移動は約9割が自動車となっており、ほとんどの人が自動車で移動しています。

#### ③自動車利用

- 中津川市内に登録のある自動車保有車両数は70,875両で、人口1人あたりの車両数は0.88両です。これは全国平均や岐阜県平均より多く、自動車の保有が高い状況です。
- 中津川警察署管内における若年者（16～64歳）と高齢者（65歳以上）の運転免許保有率の推移をみると、若年者は減少傾向ですが、高齢者は増加傾向にあります。

#### ④観光

- 馬籠宿や中山道といった全国的に著名な歴史・文化施設や、温泉や高原など自然を生かした施設があり、多くの方が中津川市を訪れています。
- 妻籠宿から馬籠宿を歩く外国人の数を計測した調査では、年々馬籠宿を訪れる外国人観光客数が増加しています。



▲馬籠行きバスを待つ外国人観光客

【データ出典】国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所資料、岐阜県におけるデマンド型交通に関する実態調査（岐阜県公共交通課）、中心市街地活性化基本計画市民アンケート（商業振興課）、岐阜県観光入込客数統計調査（岐阜県）、中山道馬籠峠を越えるハイカー調査（妻籠を愛する会）、岐阜県の自動車保有車両数（岐阜県自動車会議所）、中津川警察署資料、中津川市統計書、明知鉄道資料、岐阜県タクシー協会資料

## 2. 主な公共交通の現状

### ①鉄道

- JR 中央本線は主に名古屋方面への通勤・通学や、日常生活のための交通手段です。中津川駅では1日平均約 3,400 人の乗車利用があります。
- 明知鉄道は、阿木地区住民の移動や、阿木高校へ通う学生の重要な交通手段です。沿線人口の減少に伴い利用者数も減少し、2016 年度には年間輸送人員が初めて 40 万人を割り込みました。
- 明知鉄道沿線の中津川市と恵那市では、明知鉄道が永続して運行できるよう、安全運行に必要な運営費や維持修繕費などの補助を行っています。



▲朝の美乃坂本駅前

### ②路線バス

- 市内では、北恵那交通（株）、東濃鉄道（株）、濃飛乗合自動車（株）の3事業者によって路線バスが運行されています。
- 路線バスは、主として中津川市街地発着の路線、地域間を結ぶ路線および市外とを結ぶ路線が設けられています。



▲バスとタクシーが並ぶ坂下駅前

### ③タクシー

- 中津川市と恵那市からなる東濃東部交通圏が営業区域となっており、市内では、近鉄東美タクシー（株）、東鉄タクシー（株）、（株）サカガワの3事業者がタクシー事業を行っています。
- 全国的な傾向と同様に、市内に営業所を持つ事業者でも運転手が不足しており、実働率は6割程度となっています。



▲中津川駅前で待機するタクシー

### ④コミュニティバス

- コミュニティバスは、交通手段を持たない方の日常の通院や買い物などの『おでかけ手段』として、市内9地区で運行しています。
- 民間の路線バスを幹線と位置づけ、その幹線へつなぐ地域内の支線をコミュニティバスが運行するという役割分担をしています。



▲地域の足コミュニティバス

## 第3章 公共交通を取り巻く課題

### 課題1 利用者の減少で公共交通網の維持が困難に

- 自動車利用の増加に加え、人口減少や少子高齢化によって、公共交通の利用者が減少しています。交通事業者の経営努力だけでは利用者の減少を食い止めることは難しく、公共交通網の維持が困難になりつつあります。
- 中津川市の自動車保有率は高く、高齢者の免許保有率も年々増加しています。自動車の普及により公共交通の利用者は大きく減少し、公共交通網の維持が困難になりつつあります。
- 日々の生活において自家用車はなくてはならないものですが、自家用車を持たない方や学生の移動手段を確保するためには、最低限の公共交通網の維持が必要不可欠です。
- 南北に市域の長い中津川市では、バス通学の移動距離も長く、定期券の金額が高額となる地域が存在しており、高校進学とともに一家で市中心部へ引っ越すといったケースも見受けられます。このことは、個人や家庭にとっては生まれ育った場所で住み続けることができないということ、地域社会にとっては過疎化に拍車がかかってしまうこと、交通事業者にとっては利用者の減少がさらに進むことを意味します。



▲国道19号の渋滞（深沢交差点）

### 課題2 誰もが分かりやすい公共交通となっていない

- 馬籠宿をはじめとした市内観光地には、路線バスを利用して旅をする観光客が訪れ、外国人観光客の数も増えています。
- 迎え入れる中津川駅前のバスターミナルの設備には改善すべき点が数多くあり、中津川市を訪れた方に「おもてなし」をする環境が十分とは言えません。
- 待合所や乗車環境の向上、路線図や時刻表などの情報発信を充実することで、来訪者だけでなく、市民にも分かりやすい公共交通とならなければなりません。



▲外国人の利用が多い馬籠線

### 課題3 運転手不足で公共交通網の維持が困難に

- バスやタクシーの運転手不足が続いています。また、運転手の高齢化が進み、現役世代の引退後には急激な労働力不足に陥る恐れがあり、現状の路線や運行本数を維持することが困難になりつつあります。
- 運転手不足の影響で、タクシーの稼働率は6割程度にとどまっており、『仕事や車両があってもタクシーを動かすことができない』といった状況になっています。
- 自動車運送事業における女性の就業比率はわずか2%程度にとどまっています。
- 全産業と比較して、バスやタクシーの運転手の平均年齢は高く、労働時間は長いにも関わらず、その給与額は低い状況が続いており、新たな人材の確保が困難な状況が続いています。
- 今後も市内の公共交通機関を維持できるように、交通事業者による人材確保の取り組みを支援することが求められています。



#### リニアが来る街 なかつがわ

- 中津川市には、2027年に開業するリニア中央新幹線の岐阜県駅と、全国で唯一の工場機能を有する中部総合車両基地が美乃坂本駅に近接して設置されます。
- 現在、美乃坂本駅に乗り入れている路線バスは、市民病院を經由して中津川駅を結ぶ便が平日2往復、恵那駅と中津川駅を結ぶ便が平日7往復（休日3往復）の運行で、これ以外の地域とは結ばれていません。
- リニア岐阜県駅が岐阜県の東の新しい玄関口となり、交通結節点として駅の機能性を充実させ利便性を高めるためには、在来線や路線バス、タクシーなど既存の公共交通機関との連携や、周辺エリアの機能整備、幹線道路網などの再構築を今後進めていく必要があります。



▲岐阜県駅ができる美乃坂本駅周辺



▲リニア岐阜県駅北口駅前広場周辺イメージ



## 第4章 地域公共交通網形成計画の基本的な考え方

### 1. 計画の基本方針

- 上位計画である中津川市総合計画では、「かがやく人々 やすらげる自然 活気あふれる中津川」を将来都市像として設定し、次の3つの基本理念を掲げています。
  - ①人々がかがやくまち 中津川
  - ②やすらぐ自然につつまれたまち 中津川
  - ③活気あふれるまち 中津川
- 「中津川市地域公共交通網形成計画」は、上位計画が目指す将来都市像を実現し、公共交通を取り巻く課題を解決するため、次のとおり基本方針を設定します。

#### 計画の基本方針

**住んでよかった、住んでみたい街に。**  
 ～公共交通網の維持で定住を推進～

### 2. 計画の目標

- 計画の基本方針に基づき、「中津川市地域公共交通網形成計画」の目標として次の3つを設定します。

#### 目標1 住み続けられる街に ～定住を支える公共交通

- 中津川市に住む人なくして公共交通は成り立ちません。市の活力の源は人です。人口減少への対応は、市の施策における最大の課題です。
- 中津川市では、人口減少を少しでも食い止めるために定住施策を推進しています。この地に住む人が「住んでよかった、住み続けたい」と思える街を実現する際に、公共交通の果たす役割は小さくありません。もちろん、定住の促進は公共交通利用者の維持にもつながります。
- 高校生が地元から離れなくても、自宅から公共交通を利用して高校へ通うことができるような取り組みを行い、定住につなげます。
- 自家用車を利用する方に公共交通機関を利用するように転換を促すことは非常に困難です。しかし、自家用車以外の移動手段の選択肢として、公共交通の役割は重要です。高齢者ドライバーによる事故が増えていることや、自家用車を持たない方もいるため、自家用車を使わなくても必要最低限の移動ができるようにするための取り組みを行います。

## 目標2 来てよかった、また来たい街に ～観光と利用促進

- 公共交通は、住民の移動手段のみならず、観光客や地域外からの来訪者にとっても必要な交通手段です。
- 公共交通の利用者数を安定的に確保するためには、日常生活での利用だけでなく、市に訪れる観光客などにも多く利用してもらうことが重要です。
- 誰もが公共交通を利用しやすく、中津川市での滞在時間を楽しんでもらえるよう、魅力ある公共交通となる環境づくりを行い、公共交通の利用者の増加へつなげる取り組みを行います。
- 公共交通の利用促進を図ることに加え、公共交通の活用策を住民や交通事業者、行政などの関係者が連携して協働で行い、いつまでも地域に存続する公共交通の実現を目指します。

## 目標3 誰もが活躍する街に ～運転手不足解消に向けて

- 公共交通網を将来にわたり維持していくためには、公共交通の利用者だけではなく、運転手を確保することも必要です。
- 運転手の確保に向けた取り組みを行うことに合わせ、事業者の行う労働環境改善に向けた取り組みを支援します。
- 人口が減少し、就業人口も大幅に減少する中で運転手を確保するためには、女性の活躍が運転手不足解消の鍵となります。女性、特にママさんが安心して公共交通事業に従事できるような環境づくりを行い、男女問わず運転手が魅力ある職業となるような取り組みを進めることで運転手不足の解消につなげます。

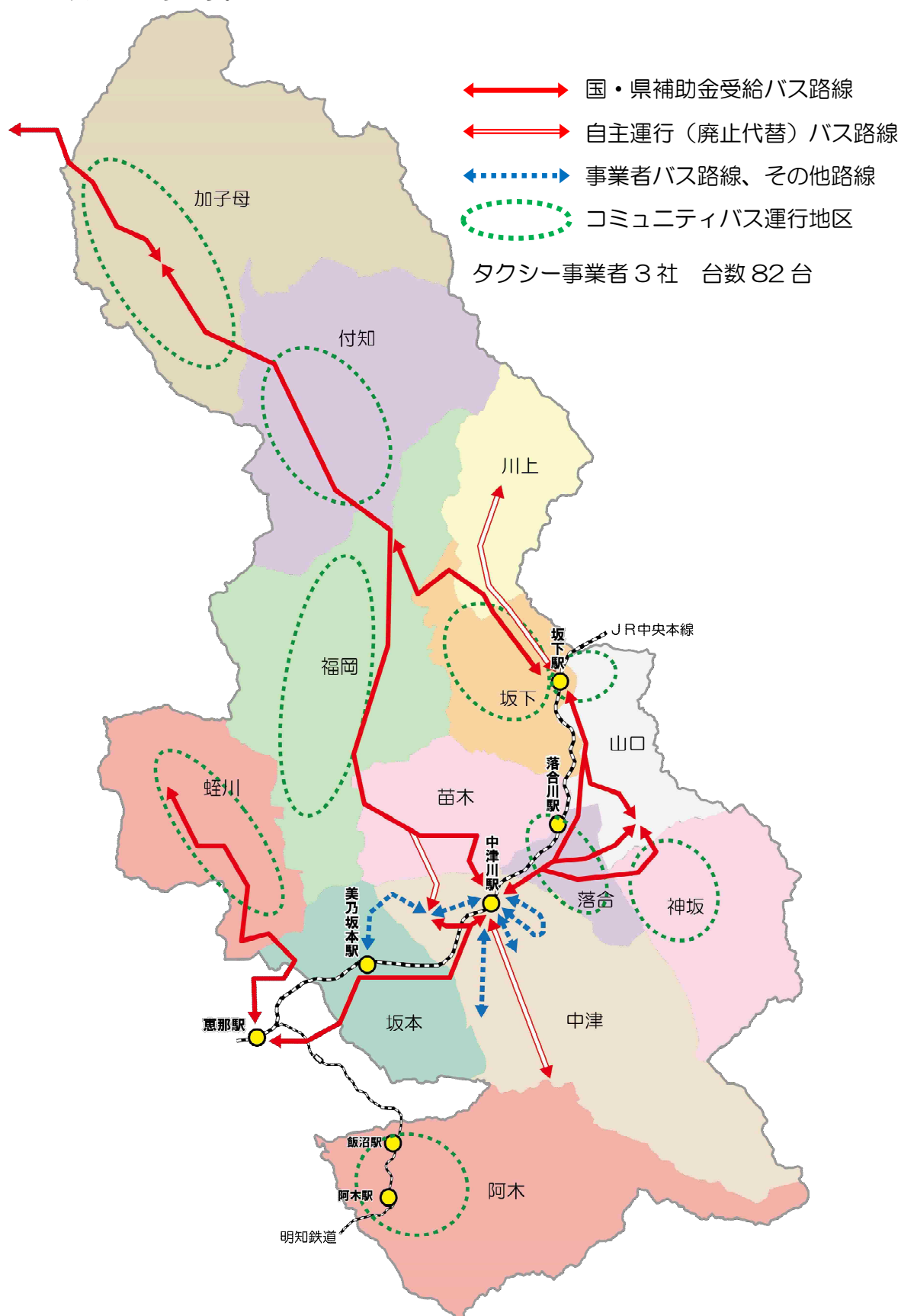


### 公共交通と福祉交通の役割分担

- 公共交通：乗降場所（駅・バス停）まで行くことができ、乗降に介助が必要でない人を対象とし、利用者を限定しないもの。運賃を払えば誰でも乗車できる交通（鉄道・路線バス・タクシー・コミュニティバス）
- 福祉交通：介護認定を受けていたり、障害を持っていたりするため、乗降場所までの移動が困難、もしくは乗降に介助が必要である人を対象として、輸送と介助が一体となったドアトゥドアの移動を行うもの（介護タクシー、福祉有償運送、タクシーチケットの補助）

### 3. 計画により維持する地域公共交通ネットワーク

- 「中津川市地域公共交通網形成計画」によって維持を目指す地域公共交通ネットワークのイメージは次のとおりです。



## 第5章 公共交通網を維持するために行う事業

### 1. 事業の内容

- ・計画の目標を達成するため、実施する事業は次のとおりです。

#### 目標1 住み続けられる街に ～定住を支える公共交通

#### (1)公共交通で定住ができる街に

##### 1-1. 高校生のバス通学を支援します

#### 【事業概要】

- ・市街地まで距離のある地域から高校へ通う学生を支援する「高等学校等バス通学費補助金」制度を継続し、自宅から学校へ通える手段を確保し、利用者の確保につなげます。

#### 【制度の内容】

- ・補助金の対象：路線バスや明知鉄道の通学定期券の購入費で、現金乗車や回数券、株主優待券などは補助対象外。明知鉄道は阿木地区居住者のみが対象。
- ・対象区間：自宅最寄りのバス停（明知鉄道の駅を含む）から、最寄りの駅（乗り換え場所）または学校までの区間
- ・対象条件：中津川市内に住んでいること（生徒及び保護者の両者が中津川市内に住所を有していること）。
- ・補助金額：定期券購入額から1カ月あたり10,000円を差し引いた額の1/2（千円未満切り捨て）。



▲バスを待つ高校生

#### 【実施時期】

時期		実施内容
各年度	4月	補助金受付開始
	12月	校長会で補助金制度説明チラシ配布の依頼 市内全中学3年生を対象にチラシ配布
	2月	バス通学保護者会などへ参加し、補助金申請方法の説明
	3月	補助金受付終了

【実施主体】中津川市

1-2. 高校生のバス通学者を増やします

【事業概要】

- 市街地から比較的近い地域に住む学生は、自家用車で送迎で高校へ通うため、バス利用が少ない現状があります。
- バス路線や時刻表、定期券などの情報を提供し、バスでも高校へ通学ができることを周知するためのチラシの配布、学校の保護者会などでバス利用をすすめます。



▲中学3年生向けに配布するチラシ

【取組内容】

- 配布するチラシには、中津川市と恵那市にある公立高校へ通学するために利用できるバス時刻表と定期券金額を掲載します。
- 中学3年生が進路選択をする時期に合わせて配布します。

【重点地区】

- 北恵那バス加子母線沿線の地区のうち、苗木、福岡地区を重点地区として実施します。

【実施時期】

時期	実施内容
各年度	8月 「バスで行ける高校」チラシの作成
	9月 校長会でチラシ配布の依頼 重点地区の中学3年生を対象にチラシ配布
	12月 市内全中学3年生を対象にバス通学補助金制度のチラシを配布（再掲）

【実施主体】 中津川市



通勤・通学でのバス利用を増やすために

- 市域が南北に長い中津川市では、路線バスの運行距離が長大になるため、定期券金額が割高になります。
- 通勤・通学者のバス利用を増やすには、バス定期券の負担軽減策を行うことが効果的ですが、実施には交通事業者の負担が増大します。また、市の補助による実施も、財源確保が課題となり現時点での実現は相当困難と考えます。利用者の負担軽減策は交通事業者と市が連携し取り組む必要があります。
- 現在の路線バスのダイヤでは、朝の出勤や登校はできても、残業や部活・塾通いの後の帰りの便がないため実質的に利用できないという問題があります。これを解決するためには終バスを延長する必要がありますが、費用や運転手の確保面から困難です。このため、バスだけでなく、タクシーを活用した施策なども検討していく必要があります。

1-3. 市民病院行きバスの乗り継ぎを円滑にします

【事業概要】

- 中津川駅前バス停は乗車場所と降車場所が離れています。例えば、中津川駅から中津川市民病院へ向かう路線バスに乗り継ぎをする場合には、降車バス停で一旦バスを降り、乗車バス停へ移動しなければなりません。
- 時刻表を改正する際には、円滑に乗り継ぎができるように調整します。
- バスの運用上可能であれば、乗降することなく同じバスで中津川市民病院へ向かうことができるように調整します。



▲中津川駅前の乗車バス停

【実施時期】

時期	実施内容
随時	時刻を改正する場合には、円滑に乗り継ぎができるように調整する

【実施主体】 交通事業者、中津川市、公共交通会議



拠点病院行き路線バスの課題

①坂下病院の機能分担に伴う対応

- 坂下病院の機能分担が議論されており、坂下地域から中津川市民病院への通院をしなければならぬ患者の交通手段の確保や利便性の向上が課題となります。

【考えられる対応】

- 既存路線バスや鉄道の活用（乗り継ぎの円滑化、乗り継ぎ割引による利用者負担の軽減）

②加子母市民病院線のあり方

- 加子母市民病院線は、2014年10月から平日の朝と昼の1往復運行しています。
- 1便あたりの利用者数は5人ほどにとどまり、中津川市民病院へ直行で利用する利用者は少ない状況です。

【考えられる対応】

- 加子母市民病院線の運行の継続
- 中津川駅経由として、駅での乗り換えを円滑にする
- 乗り継ぎした場合には割引を実施（財源確保が課題）
- タクシーを活用した代替手段確保 など



▲中津川駅前の降車バス停

## 1-4. パーク&amp;ライドで公共交通の利用を推進します

## 【事業概要】

- ・高齢者ドライバーによる事故が相次いで発生しており、運転に不安を感じる高齢者が自家用車に依存しなくても生活でき環境づくりが必要となっています。
- ・自宅から最寄りのバス停までは自家用車を利用し、バス停付近の駐車場へ気軽に駐車し、幹線道路はバスに乗り換えて出かけられるように、「パーク&ライド駐車場」の利用を推進します。



▲北恵那鉄道駅舎跡地（下付知バス停付近）

## 【実施場所】

- ・北恵那バスの下付知バス停付近など北恵那交通（株）や中津川市所有の土地を活用できるところから実施します。

## 【重点地区】

- ・バス停が利用できる付知地区を重点地区として実施します。

## 【実施時期】

時期	実施内容
2018年度	北恵那交通（株）とパーク&ライド実施に向けた協議 チラシの作成、重点地区へのチラシの配布 駐車場の整備
2019年度	パーク&ライドの実施
随時	整備可能な箇所があれば随時追加する。各駐車場の利用状況を把握する。

【実施主体】 交通事業者、中津川市

## (2)公共交通でおでかけできる街に

### 1-5. 公共交通の運行を継続します

#### 【事業概要】

- 交通事業者は、安全・安心・快適な交通サービスを提供し、地域の足となる公共交通を継続して運行します。
- 市は、路線バスやタクシーでは対応ができない地域内移動をカバーするために、交通事業者や地域住民組織と連携してコミュニティバスを運行します。
- 財政負担を抑えつつ、現状の公共交通ネットワークを確保するため、次の方針でバス路線網の維持に取り組みます。



▲自家用有償旅客運送（加子母地区）

- 1) 事業者の採算路線：今後も採算性が確保され、事業者によって維持されるよう、事業者と連携した利用促進施策を実施していきます。
- 2) 国・県補助路線：今後も継続して国・県補助を活用し、事業者と連携した利用促進施策を実施していきます。
- 3) 自主運行（廃止代替）バス路線：事業者と連携した利用促進施策を実施していきます。運行内容は利用ニーズに合わせ必要に応じて見直します。
- 4) コミュニティバス：事業者や地域住民組織と連携した利用促進施策を実施していきます。運行内容は利用ニーズに合わせ必要に応じて見直し、改善が見られない場合には縮小や廃止も含めた抜本的な見直しも実施していきます。

#### 【実施時期】

時期	実施内容
通年	公共交通の運行の継続
随時	事業者や地域住民組織と連携した利用促進施策を実施 利用状況や利用者の意見をもとにルート、時刻、運行日などの見直し

【実施主体】 交通事業者、地域住民組織、中津川市、公共交通会議



#### 路線バスで「ヒト」と「モノ」を運ぶ

- 路線バスの乗客の運送と合わせて、乗客の荷物でない荷物を運送する「貨客混載」の実証実験が各地で始まっています。
- 物流業界における運転手不足の解消や、路線バスの運送収入向上に貢献する取り組みとして、今、注目が集まっています。



1-6. タクシーを活用したおでかけを推進します

【事業概要】

- ・タクシーは24時間ドアトゥドアで誰もが利用できる自由度の高い公共交通機関です。
- ・タクシーが利用できる地域において、タクシーを活用したおでかけを推進します。
- ・制度を開始する前に実証実験を行います。実証実験を通して制度の有効性を検証し、本格実施を開始するか否かの判断を行います。



▲タクシーの活用（神坂地区コミュニティバス）

【実施時期】

時期	実施内容
2018年度以降	タクシーを活用した制度の先進地の事例研究 実証実験方法の決定、実証実験を行う地域の選定 説明会の開催 実証実験開始 実証実験に基づき、制度の検証と本格実施の可否の判断 検証の結果、制度が有効であれば、実施要綱の制定、本格実施

【実施主体】中津川市、交通事業者



**グループタクシー（山口県山口市）**

- ・65歳以上の方を対象としたタクシーを共同で利用する仕組みです。
- ・タクシー利用券は駅やバス停までの距離に応じて300円券、500円券、700円券があり、1人につき年間60枚発行されます。
- ・グループでタクシーを利用する際に、タクシー運賃から「グループタクシー利用券」の金額を差し引いた料金を、乗り合わせたグループの方々で負担します。
- ・1人でも利用券が使用できますが、1乗車につき1人1枚のみの使用となるため、相乗りすればするほど自己負担額が下がり、お得にタクシー利用ができます。

**あいのりタクシー（多治見市）**

- ・区や町内会などが運営主体となってタクシーの貸し切り契約を結び、利用者の複数利用を前提とした仕組みです。
- ・利用者は運賃の一定額を負担し、タクシー運賃と利用者負担の差額を運営主体が負担し、運営主体に市が補助を行います。
- ・タクシー運賃から運営主体が決めた利用者負担額を差し引いた額が補助対象経費となり、補助率は対象経費の2分の1で、限度額が20万円です。

1-7. 明知鉄道の運行を支援します

【事業概要】

- 明知鉄道は、恵那駅と明智駅を結び第三セクターの地方鉄道です。中津川市内には阿木駅と飯沼駅があり、阿木地区住民や来訪者の移動、通学の足として重要な役割を果たしています。
- 阿木地区の重要な交通手段である明知鉄道の安全運行に必要な運営費や維持修繕費などに対し、国や県の補助を活用しながら、恵那市と連携して支援します。
- 阿木地区のコミュニティバスの時刻は、明知鉄道との接続を考慮して設定します。
- 明知鉄道の利用を促進するための啓発活動を支援します。



▲阿木駅で明知鉄道に乗り込む高校生

【実施時期】

時期	実施内容
随時	明知鉄道の時刻改正に合わせ、コミュニティバスの時刻改正を実施 チラシ配布やポスター掲示などの啓発活動を支援 恵那市と連携し、国や県の補助を活用して支援

【実施主体】中津川市、交通事業者



**第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画**

- 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会では、2018年3月に第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画を策定しました。
- 移動手段の確保に向けてまちづくりや観光施策とも連携し、明知鉄道を核とした公共交通ネットワークを構築するため、観光列車のさらなる活用や沿線高校生の通学手段の確保、沿線住民の意識改革に向けた様々な方策を行っていきます。

**明知鉄道の利用者と収入増加に向けたさまざまな取り組み**

【貨客混載】日本郵政(株)の荷物を明知鉄道のスペースを活用して運ぶ貨客混載事業が2019年3月に始まりました。二酸化炭素排出量やドライバー運転時間を削減し、安定した運賃収入の確保による明知鉄道の経営基盤強化といった効果が期待されています。



### (3)使ってみたくなる公共交通がある街に

#### 1-8. 路線バスとコミュニティバスの乗り継ぎ割引を行います

##### 【事業概要】

- ・路線バスとコミュニティバス相互の乗り継ぎを進めるため、路線バスとコミュニティバスを乗り継いで利用した場合には、コミュニティバス運賃相当分の割引を検討します。
- ・乗り継ぎ前のバスで当日限り有効の乗り継ぎ券を発行し、乗り継ぎ後のバスで運賃から割引した差額を支払います。



▲加子母総合事務所前のバス停

##### 【実施時期】

時期	実施内容
2018年度	詳細の検討
2019年度	検討結果を踏まえた実施と見直し

【実施主体】中津川市、交通事業者

#### 1-9. 免許返納者へのタクシー割引制度を継続します

##### 【事業概要】

- ・加齢に伴う身体機能や判断力低下により、運転に不安を感じる高齢者が増えています。
- ・タクシー事業者では、運転免許証を自ら返納し、運転経歴証明書の交付を受けた高齢者への運賃割引制度を設けています。
- ・今後もこの制度を継続し、運転免許証を返納した高齢者が気軽にタクシーを利用できる環境をつくります。

##### 【実施時期】

時期	実施内容
各年度	タクシー運賃割引制度の継続

【実施主体】交通事業者



#### 高齢者の免許返納への取り組み

- ・高齢者が自動車からバスへと交通手段を転換することは、高齢者による事故を防止するなどの観点から重要です。
- ・高齢者の免許返納時に一定額の回数券などを無償で提供し、バスに乗るきっかけづくりとなるような利用促進策を行うことも必要であると考えられます。

1-10. 安全・安心に利用できる公共交通を目指します

【事業概要】

- 高齢者や子育て中の方、障がいのある方など、誰もが気軽に公共交通を利用できるように、交通事業者が今後車両を更新する際には、低床バスや UD（ユニバーサルデザイン）タクシーを導入し、バリアフリー化を進めます。
- 「ドライバー異常時対応システム」など先進安全運転支援装置の導入により、万一の際にも被害が軽減できるような車両の導入を進めます。
- バス利用者が安全・安心に公共交通が利用できるようにバス停や待合施設の改善を推進します。



▲UD タクシー

【実施時期】

時期	実施内容
随時	車両更新の際には、バリアフリー車両や安全運転装置などの導入を優先的に検討する バス停や待合施設を改修する際には、バリアフリー化を進める

【実施主体】 交通事業者、中津川市

目標2 来てよかった、また来たい街に ～観光と利用促進

(1)観光の取り組み

2-1. 観光資源を生かした公共交通を運行します

【事業概要】

- ・国指定史跡の苗木城跡は、「天空の山城」として注目を集めており、訪れる観光客が増加しています。また、市内には旧中山道の3宿場町（中津川宿、落合宿、馬籠宿）があり、「サムライが通った道」としてこの宿場間を歩くことが外国人観光客の間で人気となっています。
- ・市内にある観光地に公共交通を利用して訪れることができるよう、新たなバス路線の新設などを通じて市内観光を推進し、公共交通の利用者増につなげます。



▲中津川駅から苗木城跡へ直行するバス

【実施時期】

時期	実施内容
2018年度	内容の検討
2019年度以降	利用者ニーズの調査、運行実施に向けた協議、実施

【実施主体】 交通事業者、協力団体、中津川市、公共交通会議



🚌 グリーンスローモビリティで地域の交通課題の解決に

- ・「グリーンスローモビリティ」とは、電動で、時速 20km 未満で公道を走ることが可能な 4 人以上の移動手段のことです。
- ・国土交通省では、高齢化が進む地域での地域内交通の確保や、観光資源となるような新たな観光モビリティの展開など、地域が抱える様々な交通の課題の解決と、地域での低炭素型モビリティの普及を同時に進められるグリーンスローモビリティの推進を行っています。



▲桐生市で走る低速電動バス MAYU

2-2. 公共交通を使ったおでかけ情報を発信します

【事業概要】

- 公共交通を利用できる環境ではあるものの、その利便性の高さから自家用車を利用する人が多いのが現状です。普段公共交通を利用しない人が、公共交通を利用した「おでかけ」ができるきっかけづくりを行います。
- 市内観光施設へのアクセス手段の一つとして公共交通の利用ができることをPRするために、チラシやパンフレット、ホームページなどでの情報提供を充実します。
- 商業施設や医療機関などと連携し、公共交通を利用した来店や通院方法の周知を行うことで、公共交通の利用促進に取り組みます。



▲バスを利用した苗木城跡観光をPR

【実施時期】

時期	実施内容
2018年度以降	内容の検討、協力団体との協議
2019年度以降	公共交通を利用した観光モデルコースの作成 情報媒体などに公共交通の利用案内を掲載するように働きかけを行う チラシの配布やホームページなどで情報を発信

【実施主体】 中津川市、協力団体、地域住民組織、交通事業者、公共交通会議



観光客が利用しやすい路線バスに



- 中部運輸局を中心に、中部北陸9県が連携して訪日外国人旅行者の増加を図る「昇龍道プロジェクト」が推進されており、中津川市の馬籠宿はそのモデルコースの一つに位置付けられています。
- 馬籠宿を訪れる外国人観光客は年々増えており、北恵那バス馬籠線の外国人利用者も増加しています。しかし、バス車内やバス停などでは外国語表記の案内表示が少ないのが現状です。
- 外国人を中心とした観光客を意識した案内表示の見直しや、バス路線図・時刻表などの公共交通情報が容易に取得できるよう、多言語化の推進やバス運転手によるおもてなし向上などの対策が必要となっています。



## (2) 利用促進の取り組み

### 2-3. 路線バスの企画切符を発行します

#### 【事業概要】

- 北恵那交通（株）では、中津川市街地から付知峡倉屋温泉「おんぽいの湯」までの路線バス乗車券と、入浴料がセットになった企画切符を発行しています。
- 小学生、中学生、高校生が学校休校日（日曜日、祝日、長期休業日）に全路線が500円で乗り放題となる1日乗車券を販売しています。
- このような企画切符を発行する場合には、PR するためのチラシの配布や、ポスターの掲示などの活動を支援し、路線バスの利用促進につなげます。



▲小・中・高生向け1日乗り放題乗車券

#### 【実施時期】

時期	実施内容
随時	企画切符の発行・販売、PR 活動の実施

【実施主体】 交通事業者、協力団体、中津川市、公共交通会議

### 2-4. ラッピングバスやデコレーションバスを運行します

#### 【事業概要】

- 国道257号を「地歌舞伎街道」と銘打ち、地歌舞伎のまち、中津川をPRするため、路線バスやコミュニティバスに地歌舞伎イラストのラッピングを行います。
- 公共交通を利用するきっかけ作りや、バス利用者がバス車内で楽しいひと時を過ごせるよう、季節のイベントに合わせて車内装飾を施したバスを運行します。
- 車内装飾は保育園・幼稚園・学校などと連携し、地域を走る公共交通に興味や愛着を持つきっかけとなるような取り組みとして行います。



▲保育園児が飾りを作ったクリスマスバス

#### 【実施時期】

時期	実施内容
随時	地歌舞伎ラッピングバスを運行
	季節のイベント（七夕、ハロウィン、クリスマスなど）に合わせてデコレーションバスを運行

【実施主体】 交通事業者、中津川市

2-5. 公共交通の利用促進活動を行います

【事業概要】

- 公共交通の必要性や役割を考えるきっかけづくりの場を設け、利用促進活動を行います。

【のりものふれあい広場】

- バスやタクシー、消防車両などの乗り物に親んでもらいながら、バスの乗り方教室、車いすを使った乗降体験、公共交通をPRします。

【バスの乗り方教室】

- バスの乗り方がわからないといった不安があることもバスが利用されない要因の一つです。
- 実際のバスを使用してバスの乗り方や運賃の支払い方法などの体験や、交通ルールの順守や大型車両の走行特性（車内から見た死角、内輪差など）に関する知識を学びます。



▲車いすを使った乗降体験



▲路線バスを使った乗り方教室

【実施時期】

時期	実施内容
2018年度以降	協力団体と実施内容の検討、健康福祉まつりにおいて開催
2020年度以降	事業効果などを踏まえ、随時事業内容を見直しながら実施

【実施主体】 中津川市、協力団体、地域住民組織、交通事業者、公共交通会議



**Wi-Fi や電源が利用できるバス車両**

- スマートフォンやタブレットなどモバイルインターネットが全盛となる中で、フリーWi-Fi サービスや USB 電源などが利用できるバス車両が普及し始めています。
- 特に訪日外国人旅行者など観光目的での利用が多い路線や、高校生が通学利用で長時間乗車する路線などで IT 環境を充実させ、新たな利用の掘り起こしや、利用者の利便性を向上する取り組みを行うのも利用者確保の方策の一つとなります。

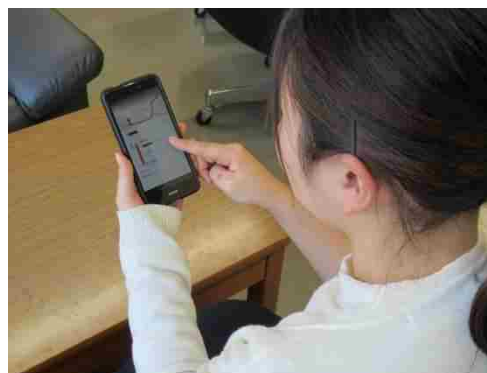


### (3)公共交通の利用環境向上の取り組み

#### 2-6. 経路検索の充実に向けたデータ整備を行います

##### 【事業概要】

- 中津川市を訪れる外国人旅行者の多くがバスを利用しており、インターネットなどによる公共交通情報を提供する重要性がますます高まっています。
- 最近広く利用されているインターネットなどによる経路検索では、鉄道や大手バス路線は広くカバーされていますが、中小バス路線は対象から外れているケースが多いのが実情です。
- 国土交通省では、2017年3月にバス事業者と経路検索事業者との間でデータの受け渡しをするための「標準的なバス情報フォーマット」を定めています。
- 市内の路線バスやコミュニティバスでも、「標準的なバス情報フォーマット」に基づいたデータ作成を進めます。データは経路検索事業者などに提供し、公共交通情報のインターネットによる経路検索を可能とします。また、将来的にバスの位置情報通知システムの導入なども視野に入れたデータ整備を行っていきます。



▲スマートフォンによる経路検索

##### 【実施時期】

時期	実施内容
2018年度以降	データ収集、バス情報フォーマットの作成 バス情報フォーマットによるデータ提供
随時	時刻改正に合わせてバス情報フォーマットの修正、データ提供

【実施主体】 交通事業者、中津川市、協力団体、公共交通会議



#### 全国に広がる GTFS-JP 整備とオープンデータ化

- 2017年3月に国土交通省が「標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP)」を定めてから、2019年6月時点で全国 120 のバス事業者や自治体が GTFS-JP データ整備とオープンデータ化を行っています。GTFS-JP データの整備は、全国で急速に広がりをみせています。



▲GTFS-JP 普及に向けたロゴも誕生

2-7. 公共交通オープンデータを活用します

【事業概要】

- 「標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP)」データの整備とオープンデータ化により、インターネットでの経路検索だけでなく、デジタルサイネージでの運行案内、調査・分析の基礎データ、バスロケーションサービス、各種アプリ開発などへの活用の可能性につながります。
- 一つのデータ整備によってさまざまな施策に活用ができる「ワンソース・マルチユース」で、わかりやすく、使いやすい公共交通サービスの提供と、活性化に向けた取り組みを行います。
- GTFS-JP データと ICT (情報通信技術) の活用を通じて、交通事業者における業務改善や生産性向上を目指します。



標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP)

2017年3月に国土交通省が定めた形式  
バス停の位置情報、時刻表、ルート、運賃などの複数の CSV ファイルを格納した ZIP ファイル

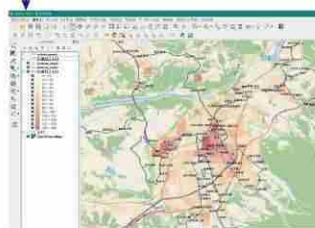
GTFS-JP のオープンデータ化→バスの活性化に



スマホで経路検索  
インターネットで  
バス経路の検索が  
可能に



サイネージで運行案内  
バス車両の現在位置情報など  
を組み合わせ、リアルタイム  
で運行情報を案内



調査・分析の基礎データ  
GTFS-JP と国勢調査 5 次メッ  
シュ人口を利用した、高齢者  
の人口分布とバスサービスの  
可視化の例



クリスマスバスでバスロケ  
単なる移動手段ではない  
「愉しみの公共交通」の  
創出と、公共交通の魅力  
を引き出す

【実施時期】

時期	実施内容
2018 年度	GTFS-JP データのオープンデータ化
2019 年度以降	GTFS-JP データの活用事例の研究、検討、実施

【実施主体】 中津川市、交通事業者、協力団体、公共交通会議

2-8. にぎわいプラザバス待合所を改善します

【事業概要】

- 中津川駅前には鉄道、バス、タクシーの交通結節点であり、駅前にある「にぎわいプラザ」にはバス待合所があります。
- 快適なバス待合所の環境を作り、鉄道やバス利用者に情報提供ができる設備を備え、円滑な乗り継ぎやバス利用の利便性を高めるための具体的な改善内容を検討し、可能なものから順次実施していきます。



▲にぎわいプラザ内のバス待合所

【実施時期】

時期	実施内容
2018年度	内容の検討、交通事業者との協議
2020年度以降	改善の実施

【実施主体】中津川市、交通事業者



中津川市のにぎわい創出に向けて

- JR中津川駅は、市民や来訪者が頻繁に利用する鉄道やバス、タクシーの交通結節点で、「市の玄関口」であり「市の顔」でもあります。
- 中津川駅前広場は整備されてから30年以上が経過し、自家用車の駐停車が問題となるなど、交通体系の変化や施設の老朽化などに十分対応できていません。
- 2018年6月に策定した「中心市街地活性化基本計画」では、JR中津川駅の利用事情や利便性に焦点を当て、機能に応じた整備が計画されています。



▲「市の顔」中津川駅前広場

**目標3** 誰もが活躍する街に ～運転手不足解消に向けて

3-1. 運転手の採用に向けて取り組みます

**【事業概要】**

- ・ 求職者と、求人事業者との出会いの場である就職説明会などに積極的に参加し、運転手の採用拡大に努めます。
- ・ 市内の事業所を対象とした中津川市の各種奨励制度を活用し、雇用の確保に取り組みます。
- ・ 名古屋地区などで開催される運転手採用説明会に、市と市内交通事業者が合同で参加し、運転手の確保に取り組みます。
- ・ 岐阜への移住に興味を持つ方に向けて、運転手の仕事に焦点を当てた相談会などを開催し、移住者確保と運転手確保をセットにして取り組みます。



▲大学生等向け合同企業説明会

**【中津川市の就職説明会】**

①ひがしみの就職面接会

- ・ 市内や近隣の企業が多数集まる就職面接会を毎年開催しています。
- ・ 大学生から求職する一般の方までどなたでも参加できます。

②大学生等向け合同企業説明会

- ・ 1社45分の会社説明会をリレー方式で行います。
- ・ 市内や近隣での就職を希望する大学生などが参加します。

**【中津川市の主な奨励制度】**

①中津川市ふるさと企業UIJターン奨励補助金

- ・ 市内の事業所が大卒者などの採用活動のため、市外で開催される合同企業説明会へ参加した際の会場賃借料、市内の各事業所で開催される採用試験に参加するために大卒者などが要した旅費を助成する制度です。

**【実施時期】**

時期		実施内容
各年度	8月	ひがしみの就職面接会
	3月	大学生等向け合同企業説明会
	随時	中津川市の各種奨励制度の活用
2019年度以降		岐阜への移住と運転手確保に焦点を当てた相談会の検討、実施

**【実施主体】** 交通事業者、中津川市、公共交通会議

### 3-2. 女性限定の運転手体験会を開催します

#### 【事業概要】

- 「車の運転が好き」、「大型の車を運転してみたい」、「人と接することが好き」という女性が気軽に参加でき、運転手という職業を身近に感じ、その仕事への理解を深めていただくために、女性に限定した職場体験会を開催し、女性運転手の採用拡大につなげます。
- 市と市内交通事業者が合同で取り組むことにより、移住・定住支援と就労支援を合わせ、市外からも女性運転手を呼び込む仕組みを作ります。



▲女性だけで行う懇談会(岐阜バス)

#### 【実施時期】

時期	実施内容
2018年度以降	体験会実施内容の企画、関係者との調整
2020年度	参加者の募集、開催日・開催場所の決定、開催

【実施主体】 交通事業者、中津川市、公共交通会議



#### 中津川に住もう！を応援しています

- 中津川市では、就職や進学などで市外へ出てしまった若者が中津川市に戻る（Uターン）や、都市圏などに暮らす人の中津川市への移住（Iターン）などで市外からの人材を呼び込み、幅広い世代の労働力を確保するとともに、安心して中津川市で「働き」、「暮らす」ための支援を行っています。



【ふるさとお帰り支援事業】 親・子・孫などの多世代が居住するUターン世帯や、Iターン世帯などに対し、住宅取得や増改築などの費用を助成しています。

【新婚さんいらっしやい事業】 若者新婚世帯が市内の賃貸住宅に入居した際、その家賃の一部を補助し、新生活を支援しています。



#### 女性が活躍できる街に

- 今後大幅に就業人口が減少していく中で、運転手不足の解消のためには、女性運転手の活躍がますます大切になってくるものと考えられます。
- 「なかつがわ男女共同参画プラン」策定にあたっての市民アンケートでは、女性が仕事と家庭を両立する場合に必要な条件として「保育や介護の施設の充実」が上位に挙げられています。
- 女性がその能力を生かし活躍するためには、例えば、市内事業所と共同で託児所を開設し、子どもを預けて安心して働くことができるような環境を整えることなどが必要となります。



事業名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
2-1 観光資源を生かした公共交通を運行します	検討・協議	新規実施			
	★交通事業者、協力団体、中津川市、公共交通会議				
2-2 公共交通を使ったおでかけ情報を発信します	検討・協議	新規実施			
	★中津川市、協力団体、地域住民組織、交通事業者、公共交通会議				
2-3 路線バスの企画切符を発行します	継続実施				
	★交通事業者、協力団体、中津川市、公共交通会議				
2-4 ラッピングバスやデコレーションバスを運行します	継続実施				
	★交通事業者、中津川市				
2-5 公共交通の利用促進活動を行います	継続実施		随時見直し		
	★中津川市、協力団体、地域住民組織、交通事業者、公共交通会議				
2-6 経路検索の充実に向けたデータ整備を行います	新規実施				
	★交通事業者、中津川市、協力団体、公共交通会議				
2-7 公共交通オープンデータを活用します		検討・新規実施			
	★中津川市、交通事業者、協力団体、公共交通会議				
2-8 にぎわいプラザバス待合所を改善します	検討・協議		随時実施		
	★中津川市、交通事業者				
3-1 運転手の採用に向けて取り組みます	継続実施				
	★交通事業者、中津川市、公共交通会議				
3-2 女性限定の運転手体験会を開催します	検討・協議		新規実施		
	★交通事業者、中津川市、公共交通会議				

## 第6章 目標の評価と進行管理

### 1. 目標の評価

#### (1) 評価指標一覧

- 本計画の目標を実現するため、計画期間に達成すべき評価指標を次のとおり設定します。

評価指標	2016年度 (基準年度)	2022年度 (目標年度)
指標1 住民1人あたりの公共交通年間利用回数	8.6回/人	8.6回/人以上
指標2 北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	30.6%	30.6%以上
指標3 運転手の新規採用の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性運転手の増加</li> <li>就職説明会や運転手体験会などの参加者から新規採用 など</li> </ul>	

#### (2) 評価指標の算出方法

- 評価指標の算出方法は次のとおりとします。

##### ① 指標1の算出方法

- 住民1人あたりの公共交通年間利用回数は、公共交通利用者数を住民1人あたりに換算して算出したものとする。
- 住民1人あたりの公共交通年間利用回数  

$$= \text{公共交通利用者数} / \text{住民基本台帳人口}$$
  - ▶ 公共交通利用者数：次の項目を合計した数とします。
    - ✓ 北恵那バス年間利用者数：バス事業年度（10月～翌年9月）【北恵那交通(株)提供】
    - ✓ 明知鉄道阿木駅と飯沼駅の年間乗降者数【明知鉄道(株)提供】
    - ✓ 自主運行バス年間利用者数：バス事業年度（10月～翌年9月）【定住推進課提供】
  - ▶ 住民基本台帳人口：9月末時点の住民基本台帳人口【市民課提供】



**②指標2の算出方法**

- 北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合  

$$= \text{沿線地区内の定期通学者数} / \text{沿線地区内の高校生数}$$
  - 沿線地区：加子母、付知、福岡、苗木地区
  - 定期通学者数：北恵那バス及び濃飛バスの定期券購入者数【北恵那交通(株)、濃飛乗合自動車(株)提供】
  - 高校生数：沿線地区の高校生数【学校教育課提供】

**③指標3の算出方法**

- 女性運転手の増加や、就職説明会・運転手体験会に参加した人の中から運転手となる人がいた、という事実をもって評価します。
  - 交通事業者：市内に営業所を持つ交通事業者

**(3)路線別の事業評価**

- 国および県、市の補助を得て運行している路線バスと自主運行（廃止代替）バスは、その事業効果を検証するため、事業者からデータ提供を得ながら運行系統ごとの利用状況を把握し、必要に応じて運行内容の見直しや沿線での利用促進策を実施します。
- 運行内容の見直しや利用促進策を実施したにも関わらず、改善が見られないコミュニティバス路線は、他の方法への転換や、廃止・縮小といった抜本的な見直しを実施します。
- 補助を行っていない路線バスや明知鉄道も、事業者からデータ提供を得ながら、採算性の確保に努めます。
- これらのデータをもとに、系統ごとの経年比較を行い、路線を取り巻く状況を逐次把握します。
- ここで把握する利用者数の合計値は、目標2の評価指標の内数です。

**①路線バス(補助路線)の事業評価**

- 次の項目をバス事業年度（10月～翌年9月）ごとに確認します。【北恵那交通(株)提供】
  - ✓ 系統ごとの利用者数
  - ✓ 収支率
  - ✓ 市費負担額
  - ✓ 利用者1人あたり市費負担額
  - ✓ 日あたり利用者数
  - ✓ 1便あたり利用者数
- 国、県補助路線（地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域間幹線系統）受給路線）については、上記に加え、次の数値も確認します。【北恵那交通(株)提供】
  - ✓ 輸送量
  - ✓ 平均乗車密度

## ②路線バス(非補助路線)の利用状況把握

- 次の項目をバス事業年度（10月～翌年9月）ごとに確認します。【北恵那交通(株)提供】
  - ✓ 系統ごとの利用者数
  - ✓ 日あたり利用者数
  - ✓ 1便あたり利用者数
  - ✓ その他、事業者からデータ提供が得られる内容

## ③明知鉄道の利用状況把握

- 次の項目を毎年確認します。【明知鉄道(株)提供】
  - ✓ 阿木駅と飯沼駅の年間乗降者数

## ④自主運行バスの事業評価

- 次の項目をバス事業年度（10月～翌年9月）ごとに確認します。【定住推進課提供】
  - ✓ 系統（地区）ごとの利用者数
  - ✓ 収支率
  - ✓ 市費負担額
  - ✓ 利用者1人あたり市費負担額
  - ✓ 日あたり利用者数
  - ✓ 1便あたり利用者数
  - ✓ 人口1人あたり利用回数
- 本項目における評価内容のうち、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統）および岐阜県バス運行対策費補助金に該当するものについては、同補助金の申請・評価にも活用します。

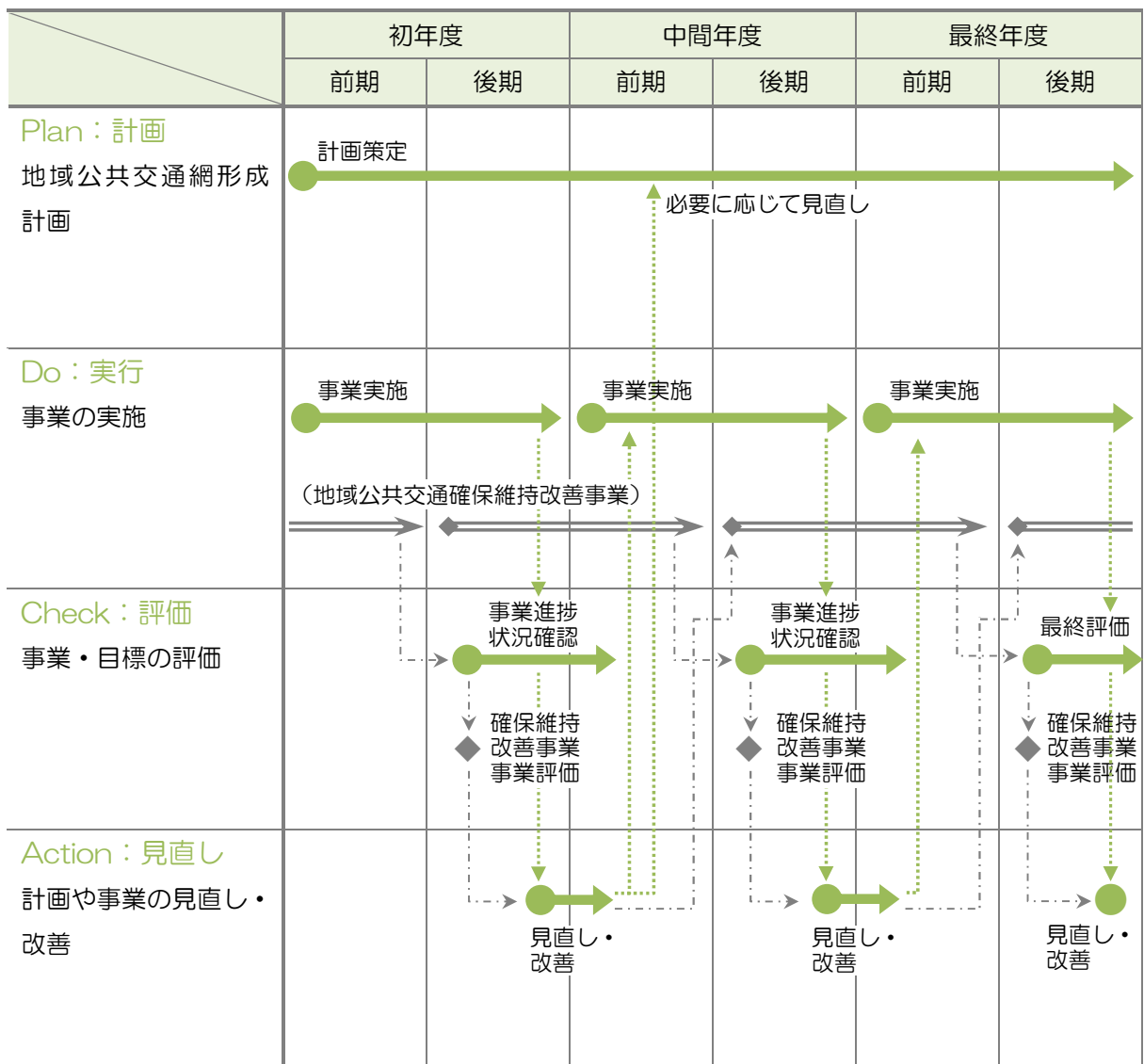
## 2. 目標の進行管理

### (1) 実施体制

- 本計画の実施にあたっては、市民、交通事業者、行政などで構成する「中津川市公共交通会議」が主体となり、関係機関などの意見を反映しながら事業を進めます。
- 必要に応じて中津川市公共交通会議を開催し、事業の進行を管理します。
  - 年度前期開催（4～5月頃）
    - ✓ 事業の進捗や目標・路線別の評価指標などの状況確認
    - ✓ 地域公共交通確保維持改善事業の計画
  - 年度後期開催（12月～1月頃）
    - ✓ 今年度事業進捗状況の経過報告
    - ✓ 翌年度の事業計画案
    - ✓ 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価

### (2) 計画・目標の評価スケジュール

- 本計画及び目標の進行状況は、次の評価スケジュールに基づき進めます。



# 中津川市地域公共交通網形成計画

2018年3月 策定

2019年6月 改定

中津川市定住推進部定住推進課

〒508-8501

岐阜県中津川市かやの木町2番1号

TEL 0573-66-1111

FAX 0573-65-5273